楓の誇り

わたしたちの誇り
合志楓の森小・中学校開校

小・中一体型 学年を超えた交流を

今年四月合志楓の森小学校と中学校が開校した。合志市では初めて、小学校と中学校を同じ建物内に設置している。施設の利点を活かし、小中一貫教育を推進できる。そこで私達は合志市教育委員会にインタビューをした。

合志楓の森小学校と中学校は平成二十七年五月二十日に建設する方針を決めた。

合志市は人口増加がず、と続いている全国的に見ても珍しいまちである。分離元である四つの学校がいずれも手狭になる程児童生徒数の増加傾向が続いている。そのため分離型の新設校を建設することとしたそうだ。合志楓の森の一番の特徴は小中が同じ校舎で生活していることだ。合志市における学校教育の目指す姿である。それは小学校六年間と中学校三年間を一体として捉えるということだ。小中一貫教育を推進しており、それに則った学校の形となった。そのような考え方に沿って小学校と中学校の連携が取りやすい教育環境が整えられているのである。元は旧菊池医療刑務支所があり、土地に建設された。学校の東門には、これまでの歴史的な経緯が書かれている。それには「ハンセン病患者に対する偏見や差別を助長することにつながる事態が二度と引き起こされないよう願いや思いが込められている。菊池恵楓園と合志楓の森はのり離せない関係である。

私たちは恵楓園園長の箕田誠司さんにお話を伺った。ハンセン病に関する時代背景と共に教えてください。国の政策が差別的だったこと周りから見ても差別が昔からあり、今も根強く残っていることが入所者の方々を長く苦しめてきたそうだ。また社会復帰をしても差別の目におびえながら生活していたそうだ。箕田さんは私たちに、人権に関しての理解を恵楓園を通しての伝えい、伝えられていたハンセン病の教訓を将来にわたりどう伝えていくかなどのものがある。私たちには今何ができるか見つめ直す必要がある。

箕田さんの話を聞いている様子

菊池医療刑務支所跡地に教育の場を

菊池医療刑務支所跡地

普及啓発のために活用して欲しい」と申し入れ、平成二十二年には「人権擁護のとりで」として現地保存するための十万人署名活動も展開した。その後、具体的な保存計画が進まず、刑務支所跡地は野ざらし状態が続いた。そんな中、平成二十七年、地元合志市が新設となった。学校の東門には「ハンセン病患者に対する偏見や差別を助長することにつながる事態が二度と引き起こされることがないよう願いを込めて」と刻まれた碑が設置されている。自治会の志村康会長は「いじめ」とは自分が優位に立って相手を低く見るということだから出てくるものだと思う。それぞれが自分との違いを認めて、学校の歴史を創ってくださいとメッセージをくだった。違いを認め、正しく理解することの大切さを学校のみんなに伝えていきたいと思った。思いを引き継いでいきたい。

の小中学校の建設用地として利用したいと名乗りを上げた。自治会は「子どもたちのためならば」と保存を断念し、平成三十年、合意締結

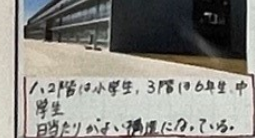
新校舎は三つの「つなぐ」

私達の校舎について話を聞いた。施設一体型の小・中学校として、校舎設計にあたり、三つの「つなぐ」がポイントとなっている。

一つ目は「人をつなぐ」である。校舎の中にある図書館や多目的教室、テラスなどのような、「合志の丘」が複数の屋内外の廊下で結ばれることにより、行き止まりの無い、回遊性が高い、まちのような空間となっている。

二つ目は「自然をつなぐ」である。各階の屋外テラスにより光と風という、自然を感じられる生活空間となっている。

そして三つ目は「新たな歴史をつなぐ」である。学校の東門に設置されている差別や偏見の解消を願う石碑に様々な出会い、心豊かな子どもの学び・交流を通して、新しい歴史を創っていくことである。人権教育のモデル校として、みんなに愛される合志の新たな学びと交流の拠点となることが期待されている。



1・2階は小学生，3階は6年生，中学生
日当たりがよい福祉になっている。

建設費は約六十九億円主な内訳は次の通りである。

校舎	34.8億円
体育館	8.6億円
武道場	2.5億円
プール	2.5億円
給食費	3.0億円
土地代	3.3億円
設計関係	3.1億円
備品関係	1.1億円
土地の造成外構工事費	4.9億円

合志市は、令和十二年まで、年間で毎年約七十人ずつ、児童数が増加する見込みだと分析されている。教室が足りなくなる場合は、学校敷地内の空いているスペースに校舎を増築していく予定である。

人を愛し志を合わせ

楓の森中学校の校歌を作詞、作曲された赤星誠司さんに質問した。

Q 歌詞で一番気に入っている部分とそこに込めた思いは何か。

A 愛と正義という言葉を絶対に入れたかった。愛と正義について考えてほしいから。

Q 愛という言葉が何度も入れられているのはなぜか。

A 無意識に愛という言葉が入っていて自分が誰かを愛することで相手を愛するという心を持ってほしい。言葉にできなくても歌で伝えてほしいから。

Q 校歌を通してどんなことを伝えたいか。そしてどんな生徒になってほしいか。

A 校歌を通して人権教育の視点とともに校歌を歌うことで成長とともに授業が深くなり意識も高くなる。そしてこの校歌を歌うことで生徒はいじめや差別を絶対にしないでほしいという願いがある。これから新しい世の中をつくっていくことを考えて世界を向けていく自覚を持って変えていく自覚を持ってほしい。歌詞一つ一つに思いが込められてまた校歌を通してまた学んでいきたい。

小・中学校初代校長先生に聞く

浦上佳宏校長先生

夢と誇りをもち主体的に行動する生徒になってほしい。小中一貫に生活することで小学生の手本になりなければいけないという気持ちになる。小学生もいこれが楓の森のよいところだ。正しい知識をもって文化の香りがする学校を目指してほしい。生徒たちが頑張りをホームページでどんどん発信していきたい。人権を大切にする気持ちも大事にしたい。

倉田賢治校長先生

楓の森小中学校のカラーを創ってほしい。開校までほーっつ確認しながら保護者や地域の方々と協働して創り上げてきた。小学生と中学生が自然と交流できるこの校舎で学校の歴史を築いていこうと思う。小中の先生方の交流や授業の乗り入れもできるので、その特色をホームページでタイムリーに発信していきたい。多くの人の思いが込められた学校だと常に意識したい。

校章・制服

今年四月に開校した楓の森小中学校の校章と服装について調べた。

楓の森小中学校の校章には勉学の象徴である万年筆で楓の葉を形づくり背後には市の木であるクヌギの葉があしらわれている。さらに権利を守る象徴である盾を組み合わせてある。小学校は若さを表す緑色、中学校は知性を表すえんじ色がベースカラーとなっており沢山の思いが込められて作られた事が分かった。

次に制服の事について調べた。令和元年六月の新校服装意識調査結果によると小学校は合志南小、西合志東小どちらも標準服の方が多い。意見が多くなる標準服になった。中学校は四校のアンケート結果を合計してプレゼンに決定したそうだ。

二年生の人権意識

私たちは楓の森中学生がどれだけハンセン病について知っているかアンケートをとった。

楓の森では菊池恵楓園にほとんど人が行った事が分かった。しかし今も差別が続いている事を知っている人が一番少なかった。このことから自分とは関係ないように思っている人も中にはいるのではないかと思った。

また楓の森をどのような学校にしたいかも聞いた。「どの学校よりも人権について深く考えられる学校にしたい」や「一人が責任をもってできる学校にしたい」などの意見が出た。他にも「相手を理解して笑顔の絶えない学校にしたい」などがあった。これからこのような学校になるために一人一人が正しい知識をもって協力していきたい。

	はい	いえ
菊池恵楓園に行ったことがあるか	84人	1人
合志楓の森が建設される場所の旧菊池医療刑務所があったことを知っているか	81人	4人
ハンセン病は感染力が極めて弱い病気だと知っているか	85人	0人
ハンセン病患者に対する偏見や差別があったことを知っているか	83人	2人
今も差別や偏見があることを知っているか	77人	8人

編集後記

私達は、この新聞を夏休みから始めた。完成するまで一ヶ月以上かかった。楓の森中がどのようにできたのか、たくさんの人の思いなどを知ることができてよかった。新聞制作を通じて学んだことをみんなに伝えていきたいと思った。